

会報第21号の発刊に寄せて



会長 K/T

本年度新津ハイキングクラブの活動の成果を形に残すものとして、「平成24年度山行記録」（会報第21号）をお届けします。貴重な体験や、（今となっては全て）楽しくもある思い出が一杯詰まっているこの会報を、次年度活動へのよすがにして頂きたいと思います。

またこの発刊に当たって、広報部はもちろん、会員や幹事の皆さんの、一年間の活動・協力に心より御礼申し上げます。

さて、本年度山行参加状況のまとめ（広報部）によると、一般山行参加率の15%アップは大変喜ばしいことです。その一方で、一斉ハイキングと月例ハイキングの10~15%ダウンは残念なことです。一斉ハイキングは、いわば会のお祭りみたいなもの。何をおいても参加して、会全員で会を盛り上げようという気持ちになって欲しいものです。また月例は、継続は力なりで、欠かさず参加してだんだん力を付け、高い山でも楽に行けるようになった何人かの人を知っています。「チリも積もれば山となる」正に月例への参加はそのようなものでしょう。

何々名山、もちろんそれはそれで結構でしょう。しかし、どんな山でも山は山です。山歩きすることによって心身をリフレッシュし、自然の素晴らしさに触れることに山は選びません。どんな山行でも機会があればそれに参加する。そのような本当の意味の山好きになって欲しいものです。

本年度12月まで実施の山行を通じて、大きな事故は発生していません。皆さんの歩き方や健康の維持管理が年々向上してきているのも大きな要因と考えます。ただ一件、大事には至らなかったが、蜂騒ぎがありました。また、一般社会の方では、関越道で大惨事が発生し、それを受けバス乗務員の時間・距離によるワンマン規制が実施されるようになりました。蜂対策及び、ワンマン規制と山行については、次号ハイク通信で触れたいと思います。

これまで多くの山行を計画実施してくれた2人の幹事がそれぞれ一身上の都合から退任することとなり、幹事体制厳しい中、次年度の一般山行をなんとか43コースを確保する見込みです。幹事ますます高齢化の中、一方では会員数の動向も気になります。今後、会の存続そのものを論議しなければならないかも知れません。どうか皆さん、会存続発展のため、今まで以上の主体的な参加協力をお願いします。